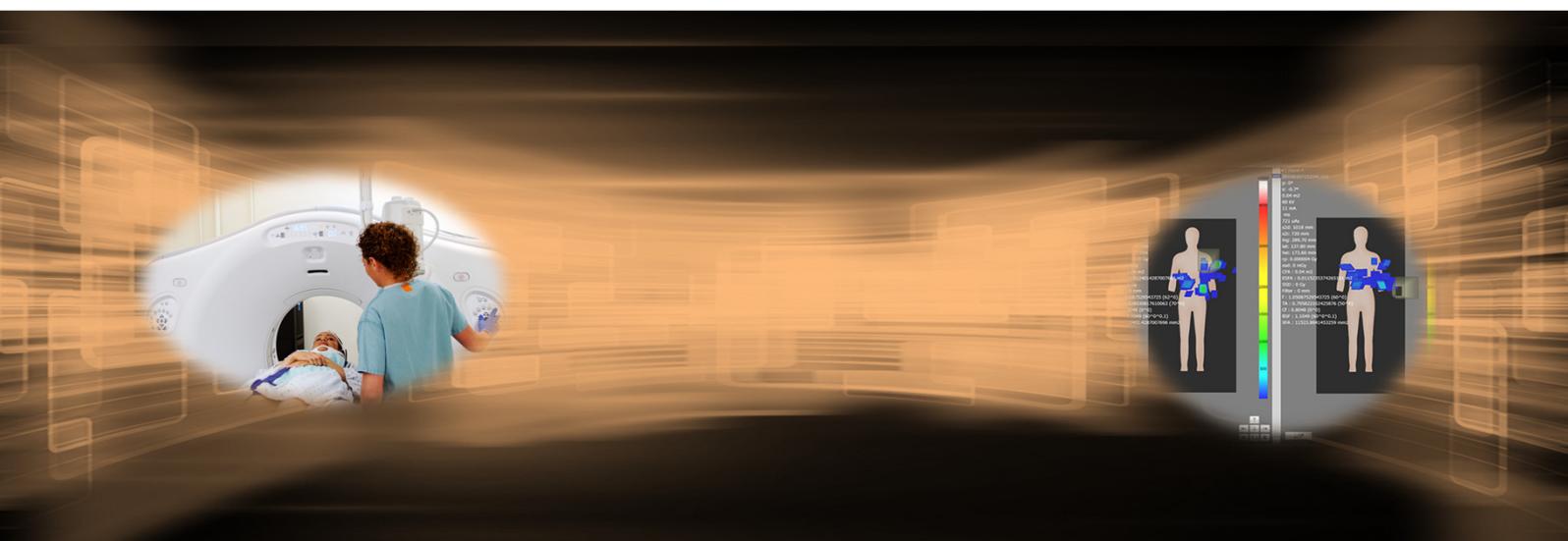


医療機器からのさまざまな形で送信されるX線照射情報を一元管理し、医療情報と統合して2次利用するコミュニケーションシステム。患者の被ばく線量を推定して管理します。



被ばく線量管理システム DOSE MANAGERは、

- 診療放射線技師による線量コントロールのためのエビデンスの提供
 - 医師によるインフォームドコンセントのための被ばく線量情報の提供
 - 研究者による被ばく線量情報解析のためのデータ収集・出力環境の提供
- を実現するツールとして、診療現場における普及を目指しています。

厚生労働省は医療放射線による患者等の被ばくの低減を図ることを目的に、医療法施行規則を改正し、2020年4月より各医療機関に被ばく線量の記録と職員の研修を義務付けることを定めました。
※詳細は「厚生労働省ホームページ：医療放射線の適正管理に関する検討会」の審議内容をご参照ください。





被ばく線量情報の自動収集

- 撮影装置からのRDSR (Radiation Dose Structured Report) を受信できます。
- PACSに保存されているRDSRをQ/RIによって自動取得することも可能です。
- MPPSなど医療機器からの照射情報を取得管理します。

被ばく線量データベースの構築

- RISからの医療情報と医療機器からの照射情報を一元管理します。
- 施設独自の線量データベースを構築でき、臨床および研究に活用することが可能です。
- データベースで管理する照射情報から患者のダメージである被ばく線量を算出できます。

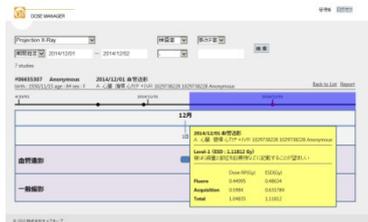
被ばく線量情報の活用

- Dose Report (被ばく線量レポート) を検査単位に作成します。
- Reportフォームは施設ごと、検査種別ごとに柔軟なカスタマイズが可能です。
- 被ばく線量情報をRISや電子カルテシステムに送信できます。
(XML形式のファイル出力に対応)
- 放射線医学総合研究所のWAZA-ARIシステムとの自動連携により、臓器線量の計算結果を取得・表示します。



既存電子カルテシステムやRISシステムと連携して
さまざまなX線検査の被ばく情報を院内端末で情報共有可能です。

Webブラウザで参照可能



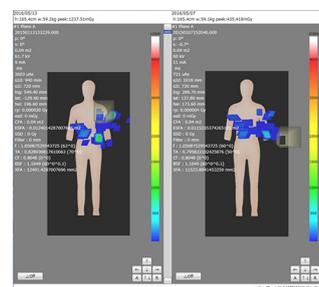
検査ごとのRDSR情報



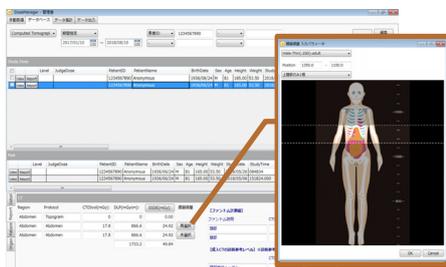
検査ごとのRDSR情報を
纏めて表示可能



検査ごとのRDSR情報やその
他情報の多彩なテンプレート



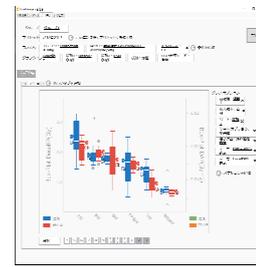
血管撮影の照射情報を
トラッキングして表示



ファントムおよび撮影範囲を
手動で変更することも可能



検査ごとのX線検査一覧



検査室ごとや検査ごとの集計など
さまざまな統計情報を提供

●EIZO、EIZOロゴはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。●その他の会社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。
●商品の価格は、すべてオープン価格です。●商品の仕様は予告なく変更することがあります。

販売窓口 受付時間 月～金 9:30～17:30(祝日、当社休業日を除く)

開発元

EIZO株式会社

株式会社キュアホープ

ヘルスケア営業部 TEL. 03-5764-3561

TEL. 06-6886-8680

〒140-0013 東京都品川区南大井6丁目22番7号 大森ベルポートE館6階

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島7-4-17 新大阪上野東洋ビル 11F

www.eizo.co.jp

www.curehope.net